

深緑と雨に包まれた大地。緑に包まれた大地は、緑色の光で、安らかな空間を醸し出してくれています。

2階の薪ストーブの壁内に、小鳥の巣があり、最近、雛がかえり、ぴよぴよと、部屋の中にいながらいつもその声を聴き、幸せな気分になっています。

田んぼには稲が植えられ、樹木の葉はぐんぐん繁り、畑の作物も背丈を伸ばし、大地周辺も、先日のお父さん達の作業のお陰で、様々な環境整備が行われ、文庫増築に向けての準備も進み、このエネルギーの中で、子ども達は、躍動感溢れる成長をこれから遂げていくのでしょうか。

先週は、風邪で体調を崩す子ども達が続出でしたが、ようやく今週から、正常状態に戻りつつあり、本格的にリズムを持った平常な生活を送りたいと願っています。

今週末は大地ののほな文庫まつりです。秋の子どもまつりに匹敵する春の楽しいお祭りです。皆様の連日のご協力には感謝申し上げます。

大地のスタッフも連日、プレーヤーとしての充実感を味わいながらああだこうだと盛り上がり、作業や準備を進め、皆で同じものを創る過程における繋がりを楽しみながら、1日の子ども達の様子や思いをしゃべりながらの夕方です。大地ののほな祭りも、子ども達や大人にも、素晴らしい夢とドラマが展開することを祈っています。



【気楽な暮らし】

先日、この春小学校を卒業したばかりの子どもから手紙が来ました。その内容はこんなものでした。

「あおちゃんへ。お元気ですか。大地の木々も、あおあおしいきれいな緑色にそまったことと思います。先日は、お手紙ありがとうございました。とってもうれしかったです。大地からの手紙が来ると、よくかよっていたころの思い出が、よみがえります。

スロープへ行き、お弁当を食べたり、ゴロゴロころがって、楽しく遊んだり、田植の時になると、みんなでどろんこになって、つなひきをしたり、森の中のお散歩コースで、あけびやグミの実、くわの実などを食べたりと、とてもなかなか体験することのできないことばかりでした。毎日が、とっても楽しかったという思い出しかありません。のほなまつりにはいけないのですが、今後行ける時があれば顔を見せます。まっけていて下さいね。それでは、ガクちゃんとえみちゃんのパーティには行くので楽しみにしています」

大地在籍当時の記憶のままの面影で、この文そしたためていることを想像するだけで心が温まります。あのあどけない少女の心の中にある大地の存在を想うと、自分達の幸せとこれからの使命を深く感じます。

この子は、大地在籍当時、いつもにこやかに過ごし、文学系で、人のやっていることをニコニコ見ながら、お人形やままごと遊びをじっくりしていた子でした。何でも器用に出来る子ではなく、まさにおっとりして、コスモスのような雰囲気でした。しかも、刈刈とファンタジーをずっと持ち続けている子供でもあり、この手紙からも、当時のまま大きくなっているなあと感じました。

彼女の思い出として、大地で何か出来るようになった、教えてもらった、気づかせてもらった、知識として備わった などというものがなく、まさに自分の身体（精神）で原体験したことしか手紙にはしたためてありません。それが、原風景として、絵画的に、しかも具体的に表現されています。

をしてもらって楽しかった、をもらいうれしかった という受け身ではなく、主体的に したことが楽しかったと、表現してくれています。このあたりは、周囲の大人の子どもの距離、姿勢によるものであり、子どものために、大人がどれだけ準備用意周到なのかというポイントですね。年長児セミナーで出ましたように、まさに「よく見てね、でも手伝わないでね」(子どもの声)ですね。この子の母親は、楽天的に、いつも朗らかに見守っていた事が印象的です。

その年齢の特徴に応じたふさわしい事を、ふさわしいやり方で、長期的な視点で、子どもと共に、日常の暮らし・遊びで、気楽に楽しんでいく。

これが、5月のセミナーのテーマであり、これで、子ども達は、自然の中の動植物のように当たり前道筋で育って行くと思います。育て親が、そんなにもがいたり考えたり、苦しんだりしなくても、楽しみと遊び心を持って、子どもと日常を過ごす事が出来ます。

気張ると、頑張ると、緊張して 余裕が無くなりますね。幼児期は、ポーとして発酵状態にいる時です。酒やワインのうまさは、まさにポーとしている発酵期で決まります。ポーとしている時は、まさに心フローな状態であり、言葉の表現とは裏腹に、何でも吸収し、感じ取り、エネルギー溢れる状態です。

幼児期で 頑張る緊張状態は、余裕と遊びが無く、楽しみもありません。頑張らない緩い遊びの暮らしの中でこそ、心に染みいる余裕があるので、子ども達もスポンジのように、楽しみながら吸収してくれます。

まさに、この少女は、それを、示してくれたように思えます。感謝と感激です。